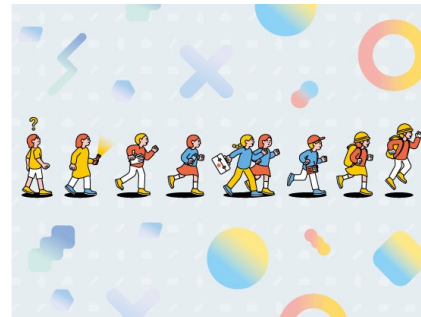


学校で取り組む災害に対する心理的備えに関する研究

1. 研究の先にある新たな未来とは？

私たちの研究拠点が描く未来は、子どもたちが主体的に楽しみながら取り組める防災教育が、学校を中心に広がることで、地域全体が災害に備えるレジリエントな社会です。未来を担う世代が、災害に適切に備えながら、自分の可能性を無限に広げることができる、柔軟で豊かな社会を実現していきます。



2. どんな研究をしている？

災害そのものへの対処法などに関する知識の備えと、災害ストレスへの対処法などに関する感情の備えによって構成される「災害に対する心理的備え」を学校現場を中心に充実させることを目指し、①災害時における自分の心の変化の予測、②多様な人の心の回復力、③災害に対する知識の充実、④新しい防災教育の創造に関する4つの研究を行っています。

3. その研究をしようと思ったきっかけは？

福島県で行っていた被災した子どもたちへの支援活動に端を発しています。震災から長い年月が経った今も、震災前の生活を取り戻せない家庭が多く存在している現状を目の当たりにし、災害後の支援だけでなく、災害前に行く「心の支援」の重要性を強く認識しました。

学校防災教育研究拠点

拠点長：久保 尊洋（教育学部）



詳細はこちら

